



令和に想う
 同窓会長
 新 居 寛

新元号「令和」の謂れは、万葉集のある行から引用とか。その出所について議論することはないでしょう。昭和、平成、令和と生きてきた私が、平成元年にどんな立場で、何をしていたかを、想起してしまいます。

平成元年は、勤務校が変わり、進路指導部等々初めてのことばかりでした。そして校長の第一声は「平成元年を進路元年とする」というものでした。進路

第44号

令和2年(2020年) 3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部



という、模試の成績の整理等だろうか。と考える方も多いのではないだろうか。進路指導はこどもたちの将来について、真摯に向き合い適切な助言をするというのが基礎・基本で、ベストアンサーではなく、コーチングのイメージで対応することを学ばせてもらいました。

時を経て今平成から令和に改元され、令和元年にどんな立場で、何をしようとするのか。奇しくも令和元年八月の総会において、会長職を拝命しました。会長としてリーダーシップを発揮しなければならぬ事も多いでしょう。不安もありますが、一方全国に優秀なスタッフがいることから安心もしています。

私に課せられた使命は、組織の活性化と会員相互の親睦に資することだと割り切つて任期を全うすることだと考えています。

末尾に好きな言葉を書き添えてごあいさついたします。

「ならばゆくひとにはよしやおくるともただしきみちをふみなたがえぞ」



**教師教育の
トップランナーとして**
 学長
 加治佐 哲也

大学運営および研究活動に多大なご支援をいただいておりますこと深く感謝申し上げます。

さて、兵庫教育大学には、本学のプレゼンスを高める機能強化の取組を推進し、『教師教育のトップランナー』として、これまでとは一線を画するような教員養成高度化に向けて、本学の特色・魅力と存在価値を格段に向上させる使命があります。

特に現在本学が取組んでいる、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)といった最先端技術に精通し Society 5.0 社会に対応できる教員養成プログラムの開発や現職教員の学びの形態の主流となる可能性の高い「ラーニングポイント制」の開発などは、これからの日本の教育の未来を決める挑戦といつても過言はありません。

これら挑戦を成功させるには、日本の教育の根幹を担っておられる大学院同窓会の皆様の豊富な知識と経験、そして何よりもいかなる困難があろうともそれを乗り越え、理想の教育を実現しようとする強い意志と実践力を結集いただくことが必要不可欠となります。どうか今後も大学へのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

兵庫教育大学基金への 寄付のお願い

兵庫教育大学基金は、学生の海外派遣プログラム等、大学の研究・教育活動を充実させるために設けられています。一人でも多くの同窓生のみなさんのご支援をお願いいたします。税の控除も受けられます。

詳細は、Webで「兵庫教育大学基金」を検索いただくか「兵庫教育大学基金事務局」までお問い合わせください。

基金事務局 TEL:0795-44-2007
 E-mail gen-kikin@ml.hyogo-u.ac.jp



グローバル化推進事業
 アジア文化研修プログラム(ベトナム)

ブロック活動の紹介(12)

中部・東海ブロック

中部・東海ブロック長

幸 脇 直 久



中部・東海ブロックでは会員相互の研修と親睦を兼ね、一緒に研修する機会を立ち上げられないかということで、平成十四年から岐阜・静岡・愛知・三重・山梨の順で研修会を開催することにした。各県では支部長を中心に内容を企画し、ブロック県に参加を呼びかける案内をする。そして、研修会には参加者各自が今取り組んでいることや、日頃の生活等を自由に書いた文章を持ち寄り意見交換することとし、参加しやすい内容を優先した。また、会の後には親睦会も設定している。

また各県・地区の行政の担当者を招いて講話なども頂き、広く各地区の情報を集めることとした。特に昨年の山

梨大会は開催日翌日に巡検も実施した(写真)。各地区の特色を生かした研修会を企画している。

今年は再び岐阜で開催したが、今後は北陸・信越での開催を打診している。



支部活動の紹介(1)

北海道支部

今回より、各都道府県支部の活動を紹介することになりました。第一回は、令和2年度の全国大会開催地の北海道です。

北海道支部 支部長

水 野 和 男



北海道には現在95名を超える大学院の同窓生が在住しています。こ

れは、大学院から遠隔の地でありながらも、北海道教育庁が長年にわたり教職員を派遣してきたことの成果であります。同窓生は広大な道内の各地において、教育に関わる様々な場面で活躍しています。

しかし残念ながら支部活動は休止状態でした。そこで、2018年に私が支部長を拝命したときに支部活動の活性化を目標に掲げ、研修会等を毎年開催することにしました。2018年に支部活動することができました。また、支部の役員や事務局体制を新たに構築しました。2019年には2回目の研修会を行いま

した。同窓生の中には連絡先が確認できない方も多く、研修会への参加者はまだ少ない状況ですが、5期以前の大先輩方にも複数出席いただき、支部研修会の案内が来て嬉しかった。ぜひ続けて欲しい」とのお言葉をいただきました。

支部の総会・研修会の目的は、「学び続けることとネットワークの展開」と位置付けており、そのため研修会では、大学院から教員を招聘して行う実践的な研修のほか、出席者からの活動報告や交流会を実施しています。今後も、研修会や交流会を継続して行うほか、常にネットワークの充実を図りながら、役に立ち参加したいと思ってもらえる支部活動を進めてまいります。



最後に告知です。今年8月8日(土曜日)、札幌市で「第40回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会(北海道大会)」が開催されます。オリンピックのマラソン競技と日程が被りますが、ぜひご参加ください。皆様を札幌でお待ちしております。



第39回兵庫教育大学大学院同窓会 総会・全国研究大会〔兵庫大会〕

令和元年8月3日(土)・4日(日)の2日間にわたって、大学院同窓会総会・全国研究大会〔兵庫大会〕が姫路商工会議所を会場に開催されました。姫路を中心とした実行委員会の奮闘で総参加者数208名という盛大な大会となりました。来賓には、井戸兵庫県知事、清元姫路市長をはじめ、そうそうたる顔ぶれで大会に花を添えていただきました。尾崎委員長をはじめ大会実行委員会の皆さま、大会を開催するにあたって、手厚いご支援をいただきました姫路商工会議所清交倶楽部、姫路観光コンベンションビューローの皆さまに心より厚く感謝申し上げます。

大会日程

第1日目	8月3日	(土)
12:00 ~		受付
13:00 ~ 14:00		総会
14:00 ~ 14:50		兵庫大会開会行事、表彰式
15:00 ~ 16:00		記念講演会
16:10 ~ 17:40		教育実践発表
17:40 ~ 18:00		記念写真撮影
18:10 ~ 20:30		教育懇話会(懇親会)
第2日目	8月4日	(日)
<巡検>		
9:10 ~	姫路城 ~ 昼食	13:00頃 姫路駅解散
<ゴルフコンペ>		
9:00 ~	福崎東洋ゴルフ倶楽部	16:00頃 現地解散

実行委員長挨拶

兵庫大会実行委員長

尾崎文雄



令和最初の全国大会を、兵庫県知事の井戸敏三様、姫路市長の清元秀泰様をはじめ多数のご来賓のご臨席のもと、かくも盛大に開催できましたことは大きな喜びであり、心より御礼申し上げます。実行委員会一同で鋭意準備を進めてまいり、参加者二百名以上という目標を実現することができました。

兵庫県支部長挨拶

兵庫県支部代表

船本秀忠



前回第32回兵庫大会の時には兵庫支部事務局長として神戸で大会運営を行い、今回の姫路大会は兵庫支部会長として開催運営に携わりました。今回、208名という、これまでの全国大会で最大の出席者を姫路にお招きして実施できたことでほっとしております。これも、県の役員の皆さんに無理をお願いして献身的に働いていただいたこと、高校部を尾崎さんに、義務教育関係を横内さんをお願いして、小中高でバランスよく運営していただいたおかげです。

最後の最後まで参加呼びかけを続け、名簿作成と入金関係を確かめ、座席表も何度も確認しましたが、やはり、みなさんそれぞれ忙しい合間を縫っての作業だったために、不備が生じてしまいました。深く詫言ひ申し上げます。

兵庫県支部は今大会以降も、組織の充実、会員相互の交流に努め、兵庫教育大学を支える態勢を整えていきたいと思っております。

日本は今、少子高齢化、情報化、グローバル化などで、社会が劇的に変わりつつあります。これに対して文部科学省は、学習指導要領の大幅な改訂や大学入試改革など、急ピッチで教育改革を進めているところです。兵庫教育大学大学院修了者はすでに1万人を超え、全国各地で高度な専門性と実践力を有する教育リーダーとして活躍されています。教育が大きく変わるこれからの時代に、私たち同窓生の果たすべき役割はますます高まっています。本大会が新しい時代の同窓生の活動に大きな刺激となるよう期待しております。

ご来賓

兵庫県関係

兵庫県知事

井戸 敏三様



兵庫県教育長

兵庫県教育次長

姫路市関係

姫路市長

清元 泰秀様



歴代学長

姫路市教育長

松田 克也様

第三代学長

第五代学長

第六代学長

大学役員

学長

副学長

副学長

副学長

事務局長

教育研究支援部長

加治佐哲也様

須田 康之様

吉水 裕也様

福井 茂樹様

小野 幸嗣様

足立 充様

大会宣言

大学院2年(39期)の満田芽生さんが力強く大会宣言を行いました。



公・民を問わずあらゆる教育分野で貢献したいと願い大会宣言を行う。

一 常に会員は、教師教育のトップランナーであるという自信と誇りを持ち、自ら主体的に学び、自らつくり、自ら身につける「学心研道」を生きる。

一 常に会員は、未来の主権者たちが主体的・協働的に自らの資質・能力を伸ばす教育を探究する。

一 常に会員は、母校である兵庫教育大学のさらなる充実・発展を願い、積極的に貢献する。

以上をもって、兵庫教育大学、そして、本同窓会のますますの弥栄を祈念して大会宣言とする。

令和元年8月3日

記念講演

「歴史資料から見た姫路城」

知られざる姫路城の秘密に迫る

講師 姫路市立城郭研究室

工藤 茂博 氏



姫路城に関する多数テレビ出演されている工藤茂博氏に、普段私たちが接する姫路城とは違

う実際のお城の姿を歴史資料をもとにお話をしていただきました。

○姫路城に市民が黒い幕をしたおかげで空襲を免れたという話は事実ではない。幕をしたのは軍隊だし、アメリカ軍の攻撃は航空機の工場の破壊と市街を焼き尽くすことが目的で、たまたま燃えなかっただけ。

○姫路城の観光名所のお菊井戸は、現在天守閣の近くの曲輪にあるが、これも違う。江戸時代は城外の馬場にある井戸をお菊井戸と言っていた。姫路城が観光地になっ



てから話を面白くするために今の場所に持ってきた。

○石落としは、石を落とすものではない。本当は「袋狭間」といって敵を鉄砲でねらうところ。

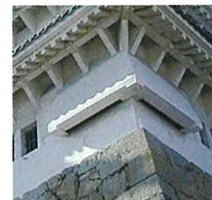
○姫路城の研究は元禄年間の絵図が発見されて大きく変わっている。絵図によって、お城の中の庭の様子が変わった。

茶会の日記と合わせると人の動きもよくわかる。映画『引越し大名!』の松平直矩は、つづじを取り寄せたという記録があるので、きっと庭につつじがあったと想像できる。

○姫路市は賞金500万円でお城に関する資料を集めている。

○姫路城の天守閣は、普段は武器庫や蔵として使われていた。非常時に食料などを入れるため空であった。だからがらんとしている。

このように、私たちが姫路城について持っているイメージとはずいぶん違う実際の姫路城の姿を教えてくださいました。目からウロコの講演会でした。



教育実践発表 I

「姫路市の小中一貫教育の歩みと展望」

推進モデル校 白鷺小中学校を
中核として

発表者 姫路市立白鷺小中学校校長

山口 偉一



山口先生は、平成18年から全国に先駆けて実施された姫路市の小中一貫教育

を推進されています。とてもすべては網羅できませんが、心労で血圧が200を超えたことや、発表会の記念の「焼酎（小中）」を販売して大好評だったエピソードなども交えて楽しくかつ内容の濃いお話でした。子どもを育てるといふ「教育」の原点について深く考えさせられた発表でした。

○姫路市の小中一貫教育は、単なる生徒減少などの社会的な問題を解決するツールではなく、教育全体をとらえる枠組みの変革であり、そこで求める教育の柱は「学力の向上」と「人間関係力」の育成であった。そして、その実現のために様々な取組を行ってきた。これまでに、7700人の教育関係者が視察に訪れている。昨年

度は47団体389人が訪れた。

○取組の中心に「実践研究発表会」を位置づけた。手探り状態であったが、苦勞しながら回数を重ね、内容が充実してきた。特に、平成23年の発表会が大きな転換点となった。7000人の参加を得て、自学力を育成するための授業について考えた。教科ごとに系統性を大切にした授業づくりを行った。兵庫教育大学の吉水教授（現副学長）にも指導していただいた。

○「ACE学習」という探究学習にも取り組んできた。児童・生徒に生涯にわたって課題を発生し学び続ける自学力を育成したい。今後はさらに充実させ、その一環として学校を「ジャコウアゲハ」でいっぱいになりたい。

確かな学力の育成として

実践研究発表会 ACE学習
小中入り授業 小中合同職員研修

人間関係力の育成として

スポーツフェスティバル なかよし活動
小中合同清掃 小中合同発表

今年度の研究テーマ

探究し続ける児童生徒の育成
—主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫—

「探究」とは、物事の真偽・価値・在り方などを深く考え、筋道をたどって明らかにすること。探究させるためには、学習過程が重要。（探究のプロセス）

教育実践発表 II

「在外教育施設の運営とその充実に向けて」

バンコク日本人学校・ローリー補習授業校の実践から

発表者 平成30年度壇野賞受賞者

伊井 直明



伊井先生には、「日本人学校」「補習授業校」と2つの在外教育施設での経験をもち、多岐にわたってお話していただきました。とてもすべてを紹介できませんが、国際化が進展する中で、真の国際化や管理職の役割について考えさせられた貴重な発表でした。

○在外教育施設には「日本人学校」と「補習授業校」がある。前者は学習指導要領にしたがって日本と同じ

在外教育施設とは

- 海外に在住する日本人の子どものために、国内の学校教育に準じた教育を実施することを主たる目的として海外に設置された教育施設

文部科学大臣の認定を受けた在外教育施設（日本人学校）

- 国内と同等の教育を行う。（学習指導要領に基づく教育、校長・教諭等の派遣）
- 上級学校への入学資格を有する。
- 海外に在留する邦人組織の団体が設立、運営
- 国内の学校法人等が設立母体（世界に8校、H27年4月）

補習授業校

- 現地校や国際学校（インターナショナルスクール）等に通学している日本人の子どものために、土曜日や放課後などを利用して、一部の教科について日本語で授業を行う施設
- 国語、算数（数学）、理科、社会等を教える
- 条件を満たす学校へ校長を派遣（教育課程の管理、教員への指導等）

在外教育施設では、自分の力で学校をダイナミックに変えることができる。将来管理職を目指す人にはぜひ経験してほしい。

補習授業校に在籍する生徒の資質や能力

- 異文化理解、異文化尊重の態度、共に生きる能力（資質と能力）
- 日本人としての意識、個人としての自己確立（日本人としての自己確立）
- 国際社会において相手の立場を尊重し、自分の考えや意思を表現する力（コミュニケーション能力）

国際化の進展に伴い日本人に求められている資質や能力

補習授業校 日本人学校

教育を行う。後者は現地の学校に通っている日本人の生徒が週末に学びに来る。国語・算数（数学）が主である。「バンコク日本人学校」は生徒数2450人の大きな学校で、ここでは、土日の登校日の設定や小学校における教科担任制、習熟度別学習、小学校と中学校の教員交流、特別支援学級の創設などに取り組んだ。

「ローリー補習授業校」はアメリカ・ノースカロライナにあり、退職後にシニア派遣で赴任した。ここでは、日本の学校文化を経験できる運動会などの学校行事などを実践するとともに、日本史の授業や、現地で活躍している日本人による話などを通して日本に対する誇りを醸成した。補習授業校の生徒は、国際化の中で必要な能力が高い。生徒たちは、自分たちの文化とは異なる中で日常生活を送っている。その中で異なる文化をもった人とともに生きていくことの大切さを体得している。同時に、日本人であることも強烈に意識している。

令和元年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

特別賞

氏名	教育実践研究活動	専攻・コース・期
大橋 博	日本を代表する教育者・教育実業家 第5代大学院同窓会会長 <主な功績および役職> 学校法人創志学園理事長 兵庫教育大学学長選考委員 創造学園、環太平洋大学、クラーク記念国際高校、創志学園等を創設し、日本の教育に大きな影響を与えている。	学校教育専攻 教育経営コース 20期

嬉野賞

氏名	教育実践研究活動	専攻・コース・期
大槻 雅俊	教育研究活動や社会貢献を通して後進を指導 元大学院同窓会副会長 <主な功績および役職> 大阪成蹊短期大学教授 大阪市立小学校長、国際理解教育部長等を歴任し社会科教育等の分野において、教育実践を通じた理論研究を推進した。	教科・領域教育専攻 社会系コース 3期
川崎 聡大	本大学出身の新進気鋭の研究者 <主な功績および役職> 東北大学准教授（大学院教育学研究科教育心理学講座） 障害児教育を中心に、全国各地で講演会・研修会の講師をつとめるなど、日本の障害児教育や心理学に偉大な功績を残している。	障害児教育専攻 15期

奨励賞（論文賞）

氏名	論文のテーマ	専攻・コース・期
丹後 政俊	学校教育における冒険教育の効果と課題 ～ささやま冒険教育の実践を中心として～	教科・領域教育専攻 社会系コース 10期
河合 信之	概念変換を促すワークシートの考案と効果の実証的研究 ～力と運動における素朴概念を事例として～	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース 34期



前列左より 受賞者のみなさん
 川崎さん 大槻さん 大橋さん
 丹後さん 河合さん
 後列左より 同窓会役員
 渡邊副会長 船本副会長 新居会長
 尾崎実行委員長
 続いてご来賓のみなさま
 井戸兵庫県知事 西上兵庫県教育長
 松田姫路市教育長 加治佐学長



総会に出席された長井さんと早川さんに新居会長より感謝状と記念品が贈呈されました。

- 支部代表
 岩田 進（島根）
- 理事
 糟谷文夫（宮城） 大畑健実（静岡）
 田畑孝司（京都） 佐野 薫（岡山）
 市川博登（広島）
- 監事
 早川 求（島根）
- 金児利明（鳥取）
- 小林由美子（愛知） 長井勘治（大阪）
- 副ブロック長
 遠藤 茂（宮城）
 白井 洋（兵庫）（事務局長）
 山本紀代（和歌山）（ブロック長）
- 副会長
 い間お疲れ様でした。

平成30年度退任役員

平成30年度をもって、次の皆さんが同窓会役員を退任されました。長い間お疲れ様でした。

令和元年度 大学院同窓会役員

会長 新居 寛 (兵庫)				支部代表							
副会長	専門部長代表 船本秀忠 (兵庫)	ブロック長代表 渡邊哲郎 (山口)	院生協代表 (前期) 小椋伸人 (後期) 廣畑まゆ美	事務局長 菅野恭介 (兵庫)	北海道	水野 和男	横内 恵				
専門部長	組織部長 玉木 隆 (岐阜)	総務部長 船本秀忠 (兵庫)	研究部長 中尾豊喜 (大阪)	会計部長 佐々木勇 (岡山)	広報部長 大畑和典 (広島)	青森	西澤 亨一	兵庫	船本 秀忠		
監事	監事長 北山鎮道 (岡山)	監事 田中嘉明 (兵庫)	監事 中園大三郎 (大阪)	監事 毛利直巳 (鳥根)	岩手	山本 勉	菅野 恭介	宮城	佐藤 司		
相談役	武 泰稔 (岡山)	酒巻成欣 (大阪)	吉田 廣 (兵庫)	山下 裕 (広島)	秋田	高橋 正規	井上 温子	山形	本田 礼		
	大橋 博 (兵庫)	川村庸子 (岩手)			福島	永嶋 啓一	奈良	山崎 誠	茨城	吉田 重郎	
ブロック	ブロック長	副ブロック長	理事		栃木	駒田 郁夫	鳥取	藤原 彰二	群馬	青木 雅夫	
北海道・東北	小山文明 (岩手)	永嶋啓一 (福島)	榎澤 実 (北海道)	千田健一 (宮城)	村石好男 (宮城)	埼玉	松尾 鉄城	徳島	田村 明敏	千葉	手塚 裕
関東	清水政義 (東京)	松尾鉄城 (埼玉)	荒井 豊 (埼玉)	生駒義郎 (埼玉)	野田不二夫 (東京)	東京	野田不二夫	香川	野島 悟	神奈川	児玉 祥一
中部・東海 (組織部)	幸勝直久 (岐阜)	梶原正史 (山梨)	玉木 隆 (岐阜)	森 社 (岐阜)	杉田和一 (福井)	新潟	碓井 欣一	島根	毛利 直巳	富山	森山 義人
近畿① (総務部)	尾崎文雄 (兵庫)	横内 恵 (兵庫)	勝俣得男 (静岡)	山田達夫 (静岡)	五百住満 (兵庫)	石川	沼田 良一	山口	石川 芳己	福井	杉田 和一
近畿② (研究部)	雲井 稔 (大阪)	芳村美佐子 (大阪)	中尾豊喜 (大阪)	徳永加代 (大阪)	和田博之 (大阪)	山梨	梶原 正史	佐賀	草場 聡宏	長野	猪瀬 洋一
近畿③ (研究部)	岸本秀章 (岐阜)	大前泰彦 (和歌山)	山中賢司 (奈良)	唐錦秀和 (奈良)	西端幸信 (和歌山)	岐阜	松村 敏幸	熊本	八間川隆彦	静岡	神尾 義敬
東中国・四国 (会計部)	鷲見寛幸 (鳥取)	野村ゆかり (高知)	佐々木勇 (岡山)	藤原彰二 (鳥取)	千葉照久 (岡山)	愛知	鈴木 均	宮崎	米村 公俊	三重	大森 雅彦
西中国 (広報部)	渡邊哲郎 (山口)	津田和也 (広島)	大畑和典 (広島)	藤原尚幸 (鳥根)	勝田 彰 (鳥根)	滋賀	西谷 淳	沖繩	松川 隆夫	京都	大森 直也
九州・沖縄	草場聡宏 (佐賀)	川尻 徳 (福岡)	船津勇一 (大分)	松川隆夫 (沖縄)							

※ 青字は新任役員

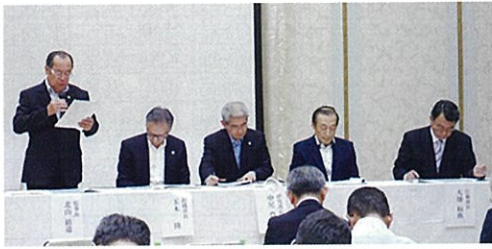
平成30年度 第37期 会計決算報告

〔収入の部〕					〔支出の部〕					
科目	予算額	決算額	増減	摘要	款	項	目	予算額	決算額	増減
会費	3,900,000	4,167,964	267,964		組織部	活動推進費	ブロック会議費	4055,000	217,335	187,665
繰越	1,205,979	1,205,979	0				支部活動助成金	200,000	175,184	24,816
売上金	0	17,800	17,800	教職の先達			需用費	0	0	0
雑収入	57	23	△ 34	預金利息等			通信費	5,000	0	5,000
合計	5,106,036	5,391,766	285,730		旅費	0	0	0		
					会議費	0	0	0		
					事務局費	事務局費	渉外費	600,000	534,202	65,798
							印刷費	100,000	90,720	9,280
							旅費	400,000	308,370	91,630
							需用費	50,000	48,755	1,245
					通信費	0	11,000	△ 11,000		
					旅費	0	0	0		
					会議費	20,000	31,517	△ 11,517		
					総会運営費	500,000	500,000	0		
					院生協活動助成費	100,000	100,000	0		
					寄付金(兵庫教育大学同窓会研究助成金)	1,000,000	999,568	432		
					小計	4,728,000	4,254,316	473,684		
					予備費	繰越金他	378,036	400,000	△ 21,964	
					合計	5,106,036	4,654,316	451,720		
					○予備費の内訳は西日本豪雨災害見舞金 300,000円 40周年記念寄付 100,000円です。					
					○収入決算合計 5,391,766円 支出決算合計 4,654,316円 差引 737,450円 差引残高の 737,450円は、第38期会計の収入(繰越金)に充てます。					
					○兵庫教育大学大学院同窓会積立金は次のとおりです。 定額預金 10,190,000円 平成29年6月5日預入(定額預金10年満期) 以上報告いたします。					
					令和元年5月31日 兵庫教育大学大学院同窓会 会長 川村 庸子 同 会計部長 佐々木 勇					
					監査報告 上記の第37期会計決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果 正確であることを認めます。					
					令和元年5月31日 兵庫教育大学大学院同窓会 監事長 北山鎮道 同 監事 田中嘉明 同 監事 玉木 隆					

第39回兵庫教育大学大学院同窓会総会・全国研究大会【兵庫大会】



全体集合写真 令和元年8月3日(土) 於 姫路商工会議所



総会議事進行 (監事長、専門部長)



川村会長
退任あいさつ



歴代学長
中冽先生 佐藤先生
梶田先生



教育懇話会



8月4日(日) ゴルフコンペ 福崎東洋GC



8月4日(日) 巡検 姫路城



JR姫路駅に歓迎メッセージ

次回は北海道大会でお会いしましょう!

開催日 令和2年8月8日(土), 9日(日)
会場 ホテルライフオーブ札幌

